

1 基本項目	事務事業名	河川維持事業				担当 部署 予 算 科 目	課名	建設課
	予算事業名	河川維持事業					係名	維持管理係
	事務区分	自治事務					電話番号	0765-23-1029
	事業期間	開始年度	平成元年以前	終了年度	当面継続		会計	一般会計
	総目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち					款	土木費
	政策名	6 生命と財産を守る安全・安心な暮らしの確保					項	河川費
	施策名	11 災害に強いまちの形成					目	河川総務費
基本事業名	11-1 浸水対策の強化				アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載		

2 事業概要	事業概要	異常気象や都市化による浸水被害対策や、河川の機能維持・回復のために維持補修を行う。
	対象	普通河川等
	手段 (活動指標)	河川等の改修や修繕の必要な箇所を把握する。
	意図 (成果指標)	河川の改修、維持修繕を行い河川機能の維持・回復を行う。

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動 指標	① 河川等の改修や修繕の必要な箇所数	件	50	50	50	46	108.7%	40
	②							
	③							
成果 指標	① 改修や修繕により機能の維持や回復を行った箇所数	件	40	44	40	34	73.9%	30
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出 内訳	①需用費	円						
	②委託料	円						
	③工事請負費	円	12,512,461	12,464,172	19,775,880	19,775,880	58.7%	22,500,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円	987,539	484,648	224,120			
	支出合計(A)	円	13,500,000	12,948,820	20,000,000	19,775,880	52.7%	22,500,000
財源 内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円	5,000,000	5,000,000				
	⑤一般財源	円	8,500,000	7,948,820	20,000,000	19,775,880	148.8%	22,500,000
	収入合計	円	13,500,000	12,948,820	20,000,000	19,775,880	52.7%	22,500,000
人件 費	①事務事業に携わる正規職員数	人	9	9	9	9	0.0%	9
	②年間所要時間	時間	3,200	3,740	3,740	3,740	0.0%	3,740
	③人件費(②×@ 4,400円)(B)	円	14,080,000	16,456,000	16,456,000	16,456,000	0.0%	16,456,000
	総費用(A+B)	円	27,580,000	29,404,820	36,456,000	36,231,880	23.2%	38,956,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	河川の改修、維持修繕工事による河川機能の維持や回復	
	河川改修工事13件 の実施	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	総合計画の施策に則している。
対象の妥当性					1 妥当である	総合計画の基本事業に則している。
有効性	有効性	B	B	目標達成度	1 高い	地区・住民等の要望と、事業計画に対応している。
				類似事業の有無	1 なし	他の事務事業はない。
				上位施策への貢献度	2 普通	河川や水路の改修・修繕を行い、機能の保全に努めている。
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	施工方法や使用材料を精査し、コスト縮減に努めている。
				実施主体の適正化	1 適正である	法令などにより市による実施が義務付けられている。(準用河川)
				負担割合の適正化	1 適正である	法令などにより市による実施が義務付けられている。(準用河川)
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価 【選択してください】	【選択してください】
	後(課題及び今後の方針)の評価結果	安全で快適な暮らしやすいまちを実現するには不可欠な事業であるため、安全性を考慮した工法を採用しながらコスト縮減を図り、現状を維持していけるように進めていく必要がある。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	雨水幹線築造工事				担当 部署 署	課名	下水道課
	予算事業名	雨水幹線築造事業					係名	下水道工務係
	事務区分	自治事務					電話番号	0765-23-1039
	事業期間	開始年度	平成9年頃	終了年度	当面継続		会計	下水道事業特別会計
	総合計画 目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち					科目	下水道費
	政策名	6 生命と財産を守る安全・安心な暮らしの確保					項目	下水道事業費
	施策名	11 災害に強いまちの形成					目	公共下水道事業費
基本事業名	11-1 浸水対策の強化				アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
根拠法令	下水道法(昭和33年法律第79号)第3条				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	梅雨、台風などの豪雨時における都市部の浸水被害を防止するため、経田地区の住宅密集地などを区域とする排水区(こうなぎ川1号雨水幹線)を整備をする事業。 また、魚津駅周辺地域を区域とする村木排水区において溢水被害を防止するため、整備する事業。
	対象	雨水排水区内の住居、住民、事業所等
	手段 (活動指標)	・国庫補助申請、地元説明・交渉、工事の設計積算、監督、完成検査及び引渡し・支払い等の事務 ・こうなぎ川1号雨水幹線 69mの整備、村木排水区の実施設計 1式
意 (成果指標)	豪雨により発生する浸水被害を防止する。	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動 指標	① こうなぎ川1号雨水幹線整備済み延長[累計(延べ延長)]	m	186	186	255	255	100.0%	658	
	② 村木排水区雨水幹線整備済み延長[累計(延べ延長)]	m						68	
	③								
	成果 指標	① こうなぎ川1号雨水幹線整備率[累計(整備済み延長/整備計画延長)]	%	19	19	26	26	100.0%	66
		② 村木排水区雨水幹線整備率[累計(整備済み延長/整備計画延長)]	%						17
		③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出 内訳	①需用費	円	293,000	261,057	290,000	229,629	-12.0%	271,000
	②委託料	円	16,032,000	13,305,600	20,196,000	20,196,000	51.8%	7,000,000
	③工事請負費	円	34,880,000	17,836,000	47,837,800	46,561,480	161.1%	111,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円	3,756,000	2,712,000	6,214,000	3,794,217	39.9%	18,624,000
	支出合計(A)	円	54,961,000	34,114,657	74,537,800	70,781,326	107.5%	136,895,000
財源 内訳	①国庫支出金	円	25,456,000	15,522,000	33,333,000	35,095,000	126.1%	65,000,000
	②県支出金	円						
	③地方債	円	25,700,000	16,864,000	24,000,000	31,535,800	87.0%	64,100,000
	④その他(使用料、雑入等)	円	3,805,000	1,728,657				
	⑤一般財源	円			3,504,000	21,167,000		7,795,000
	収入合計	円	54,961,000	34,114,657	60,837,000	87,797,800	157.4%	136,895,000
人件 費	①事務事業に携わる正規職員数	人	7	7	7	7	0.0%	7
	②年間所要時間	時間	2,400	2,400	2,400	2,400	0.0%	2,400
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	10,080,000	10,080,000	10,080,000	10,080,000	0.0%	10,080,000
	総費用(A+B)	円	65,041,000	44,194,657	84,617,800	80,861,326	83.0%	146,975,000

5 取 組 内 容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	事業実施計画策定のための国土交通省他関係機関との協議 整備のための関係機関との打ち合わせ及び地元説明会の実施 こうなぎ川1号雨水幹線 69mの整備 近年溢水被害が多発している、村木排水区及び周辺の排水区を含めた、雨水排水区の見直し及び事業計画に着手。	

6 評 価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥 当 性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	下水道法により公共下水道の施行は、市が実施することとされており、市の関与は妥当である。
目的の妥当性					1 妥当である	市民の安心・安全を守る事業であり目的は妥当である。	
対象の妥当性					1 妥当である	対象は、計画区域内の市民等であり妥当である。	
有 効 性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり		
				類似事業の有無	1 なし		
				上位施策への貢献度	1 高い	災害に強いまちづくりに直結した事業であり貢献度は高い。	
効 率 性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い		
				実施主体の適正化	1 適正である		
				負担割合の適正化	1 適正である	公共下水道事業の内、雨水対策事業は公費で負担して施行すべきものであり適正である。	
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	
	後(課題及び今後の方針)の評価結果	豪雨による都市型の溢水、浸水被害を防止し、安全で安心な市民生活を確保するために必要な事業でありより、一層の事業促進が望まれる。				評価結果	